

「1ミリ改革を進めていくことが大切」

9地区の発表を聞かせていただきまして、防災や高齢者の課題、自治会組織やITの課題など、各地区で少しずつ改革がなされていることを頼もしく感じました。どの発表も素晴らしく、自治会連合会にとっても大変参考になりました。9地区の皆様、お疲れさまでした。

自治会活動を継続していく上で、住民同士の繋がりはもちろん、未来を見据えて少しずつ行動していくことはとても大切です。それぞれの地域で1ミリずつの改革を重ねていくことで、静岡市全体の改革につながり、素晴らしい街になるのではないかと信じております。



静岡市役所 大長 義之 副市長

「取り組みを横展開していく」

発表全体を通して、発表者の皆様の熱意や行動力を感じました。各地区の課題をしっかりと掘り起こして分析し、課題解決に挑まれたことに大変感服いたしました。地域の課題に対して熱い想いを抱き、自分事として捉え、粘り強く取り組まれている姿勢に敬意を表します。

静岡市としては、発表された皆様の活動状況や先進的な取り組みを、他の自治会の皆様に情報共有しながら、静岡市全体で自治会のレベルを底上げしていきたいと強く感じました。



修了生の声

他の地区と交流することができて楽しかったです。

他の自治会でも同じような悩みがあることを痛感しました。活動への勇気をもらいました。

同じ様な課題を抱えていても、数値で「見える化」すると、各地域でそれぞれ違った対策を取らなければならないことに気づきました。

何かを始める、取り組む時には、少し課題が違えども、多くの方と一緒に学ぶことが一番の近道だと改めて思いました。

地域課題の重要度、緊急性等を住民と共に洗い出し、解決策を探っていく手法を学びました。

他の受講生の取り組みに刺激を受けました。参考となる活動は取り入れていきたいです。



「地域デザインカレッジ」とは… 地域の「これから」を考える**実践型連続講座**です。

令和3年度(2021年度)から、「自治会・町内会」をテーマに据え、自治会・町内会に携わる皆さんの活動の一助となるようなプログラムで実施しています。

ご自身が住む地域の課題解決に向けて、一緒に取り組んでみませんか？

地域デザインカレッジ2023（自治会・町内会編） 実施報告【発行：令和6年3月】

静岡市 市民局 生涯学習推進課（人づくり事業推進係）

お問い合わせ ☎054-221-1207 ✉shougaigakushuu@city.shizuoka.lg.jp

地域デザインカレッジ2023

実施報告

（自治会・町内会 編）



「地域デザインカレッジ2023（自治会・町内会 編）」の軌跡

■ 基礎講座

7月 これからの地域づくりのポイントを学ぶ

■ 実践講座

7月 講座 ①：地域の見える化ワークを体験

8月 個別相談：活動テーマについて相談

9月 講座 ②：課題解決の手法を学ぶ

10月 個別相談：活動内容について相談

12月 講座 ③：発表方法や伝えるスキルを学ぶ

■ 公開報告会

12月 課題解決の検討結果や活動の成果を発表！

- ・自治会、町内会活動に関わっている方が、地域の現状を正確に把握し、地域住民とともに解決策に取り組むためのステップを学びました。
- ・実践講座を受講した9地区10名が、およそ5か月にわたって地域と向き合い、講座以外の時間も使って課題に取り組みました。
- ・その成果を、講座最終回の公開報告会にて発表しました。



1 今、そこにある危機 ～急傾斜地崩壊対策・空き家対策～ 【殿沢2】遠藤 賢一

- 自治会内で長年の懸案事項であった「急傾斜地崩壊対策」に着手。また、住民から不安の声の挙がっていた「空き家対策」も同時進行で進めた。
- 急傾斜地崩壊対策は、近隣住民から工事の理解が得られるよう、静岡県土木事務所の出前講座を利用し、勉強会を実施。近隣地区の工事完了区域を見学。空き家対策は、市のチラシを用いながら空き家所有者と折衝した。
- 今後も丁寧な説明や対応を心掛けて、課題解決に取り組んでいく。



2 高齢者の交通手段について 【馬走るリヶ丘】大石 里美

- 近隣の商業施設まで1.5kmの坂道を登った先に位置する自治会。高齢化や、既存の交通事業の運営負担に不安を感じ、まずは現状把握から始めた。
- 75歳以上の男女100名以上に、組長の協力のもと、聞き取り調査を実施。日頃の交通手段や、買い物先、運転免許返納の予定の有無などを確認した。さらに、他の地区で行われている移動手段の事例も調査した。
- 調査結果を踏まえ、今後も高齢者でも安心して暮らせる地域を目指していく。



3 災害に強い自治会に向けて 【丸子新田】藤澤 弘子

- 住民の防災意識向上を目的に、自治会内での防災活動を充実させた。
- 丸子新田の被害想定を確認し、地震や火災に備えることが大切だと把握。防火井戸や消火器、公衆電話などの場所を明記した「防災マップ」を作成し、LINEオープンチャットの試験運用に着手した。防災訓練は、キーワードを集めるウォークラリー形式で実施し、自由参加型で訓練参加を促した。
- 今後の防災訓練も、自助・共助を高める内容になるよう工夫していく予定。



4 マンション住民の自治会活動への参加 ～防災活動～ 【常磐町2】鈴木 宏明

- マンション住民の自治会活動への理解・関心を深めるために、防災を切り口に活動中。令和3年は防災アンケートを実施し、避難地などの周知を行った。
- 令和5年は、安否確認の有無などを確認するため、マンションと戸建てを合わせた全世帯にアンケートを配布。結果をもとに、安否確認用のマップと名簿を作成し、発災時にスムーズに安否確認できるよう整理した。
- 今後は、各マンションの安否確認方法の確立を目標に動いていく。



5 連合自治会の役割 ～防災から考えて見えてきたこと～ 【東源台学区】濱田 晴子

- 単位自治会長として自身の自治会の防災力向上に努める中で、単位自治会同士の協力や連合規模での防災の取り組みの必要性を実感。
- 連合自治会の防災担当部長として、まずは他の連合自治会の事例を把握するため2地区にインタビュー。災害時の拠点と役割の重要性を確認した。また、活動の第一歩として、「仮装で防災♪みんなで備えようリレー」を実施した。
- 防災を通して、地域で無理せずゆるく支え合う「ゆるささ」を目指していく。



6 自治会の必要性について考えてみる 【秋山町】池田 直久

- 会長職2年目となり、自治会の必要性について、秋山町の地域特性や今までの自治会活動、公民館の利用実態を整理することから始めた。
- 整理した結果、住民交流の機会を創出することが必要であると感じ、住民参加型の「アートクラフト展」を開催。防災活動団体と連携し、防災展示も同時開催。Facebookの開設や生涯学習センターとの共催事業も企画した。
- 今後も住民交流の機会創出に向け、自らが仕掛け人となって動いていく。



7 組の再編と自治会組織の見直し 【桜町】石垣 知恵子

- 宅地造成による住宅の増加から、組内の世帯数に差が広がり、消滅した組や枝番が発生していた組も存在していたことから、令和元年に組の整理を実施。組費の取り扱いや集金方法などの様々な意見に対し、丁寧な説明を重ねた。
- 令和5年は、高齢化に伴い役員の選出が困難な声をもとに、各役員の必要性を検討。結果、各組から選出する役員を30人減らすことに成功した。
- 今後も、住民の声を聞きながら、持続可能な自治会を目指していく。



8 IT化を手段とした効率的な自治会運営 【森下町】笹本 和宏

- 単身世帯が多く、居住期間も短い住民が多い地区であること、既存の文書でのやり取りの非効率さから、ITを用いた自治会運営ができないか探った。
- まずは他地区の事例を視察。市の補助事業を活用し、防災資材としてノートパソコンを購入、通信環境を整えた。森下町のLINE公式アカウントを開設し、若い世代へ自治会活動のアプローチ、タイムリーな情報提供を実現した。
- 今後は、自治会活動の発信や防災活動にもITを利用していく予定。



9 広野町内会まるごとデジタル化大作戦 【広野】杉山 貴勇・倉野 保則

- 総世帯数が2,000世帯を超える自治会のため、災害やイベント等の情報が迅速に伝わらないことを課題に感じ、LINE公式アカウントの導入を進めた。
- まずはアカウントの登録を回覧板などで周知。LINEを使い慣れていない高齢者に向けて、地元中学生によるスマホ教室も実施した。LINEのトークルームのメニュー画面を活用し、丸子川の水位情報を閲覧できるよう工夫した。
- 現在IT部会の設立を控えており、今後は部会で配信内容を検討する予定。



講師紹介

里山くらしLABO
池田水穂子さん



河村将雄さん

2015年設立。静岡市の中山間地域で人口減少に対応するコミュニティづくりを行う。「第8回地域再生大賞」において特別賞を受賞。2018年から「地域デザインカレッジ」講師を務める。

IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者兼
ソシオ・マネジメント編集発行人 川北秀人さん



京都大学卒業後、(株)リクルート、NGO代表等を経て、IIHOEを設立。NPO、市民団体、行政との協働の基盤づくりを進めている。2012～17年、「地域デザインカレッジ」コーディネーターを務めた。

